

～ ビーイング(Being)を活用した学級作り～

さあ、学級作り！でも学級の状態や環境はどうでしょう。安易な多数決や強い意見に大きく左右される学級になっていませんか。学級の中で一人一人が安心して自己を表出できたり、学級の一員という意識をしっかりと持ったりすることができたら素晴らしいですね。

学級という集団の中で個々の力が十分に発揮されたり、そういった機会に多く恵まれたりするようになると、正しく目標としている姿に向かって全員が動いていくことができるようになります。

そこで、まず大切にしたいのが「一人一人が安心して活動に臨めるようお互いを尊重し合える環境を作る」こと。さらに、その尊重の仕方は、「子ども一人一人が自ら考え行動する」ことです。そのためには、学級の子どもの意識の基盤を整えることがスタートラインになります。これをビーイングによって明確に表していくのです。

ビーイング(Being)という活動を活用した学級づくりについて紹介しましょう。



(ビーイングの作り方)

人形(ひとがた)や手形・形など、自分たちで考えた象徴を大きな紙(模造紙など)の中心ほどに描きます。

その中に、学級目標や目標を達成するために必要だと思ふもの(事柄や言動など)を、外側には安心して臨みにくくなるもの(事柄や言動など)を書き入れます。

いつでも見える位置や手の届きやすい位置などに掲示しましょう。そうすることで、常にみんながビーイングを意識することができます。

(ビーイング活用のポイント)

ビーイングによって飛び交う言葉や行動を明確に表していくことで、学級の望ましい姿、みんなが望んでいる姿をはっきりとさせることができます。また、よりよい学級にしていく(目標に向かっていく)ために、何が大事なことなのか、キーワード等により確認したり、共有したりすることができます。しかし、このビーイングもただの掲示物になってしまっただけでは何にもなりません。ビーイングの中に書かれているだけでは意味がないのです。みんなの思いや願いとして書かれたことは、頭の中で分かっているだけでは十分な効果を期待することはできません。頭の中で理解されたことが、一人一人の行動として表れてくるのが大切なのです。

そのためにも、けんかやちょっとしたトラブル、学級や学校の行事、その他イベントなど、様々な場面においてビーイングを活用し、自分たちの目標やそのために必要なこと、気をつけたいことを確認したり、事後の振り返りを行ったりすることで、常に自分たちの意識をしっかりと持つことが重要です。

